

治療としての鍼灸

北部タイ・HIV/AIDS感染者の身体構築と空間利用をめぐる

日野智豪(上智大学アジア文化研究所)

HIV/AIDS治療の方法は多様である。北部タイにおいては、国家政策に2年先駆けて非政府組織(NGO)によるパイロット・プロジェクトが施行されるかたちで2002年5月より抗HIVウィルス薬(ARV)治療が普及し、効果的なHIV/AIDS治療としてHIV/AIDS感染者の側からも医療者の側からも認知されるようになった。しかし、ARV治療を受けるか否かはHIV/AIDS感染者の治療に対する考え方、医療者の診断を総合して決定され、HIV/AIDSに罹患した人すべてがARV治療を受けているわけではない。HIV/AIDS感染者がARV治療を受ける場合、治療にともなう副作用を感染者の多くが経験しており、それぞれの症状を緩和させるために感染者はタイ伝統医療、中国医療、西洋医療など様々な治療を実践し、または組み合わせることで対処してきた。ARV治療を受けない場合であっても、感染者の治療実践の動態はARV治療を受ける場合と同様に多様である。いずれにせよ、治療を受ける空間としての郡立病院がHIV/AIDS感染者にとって重要な役割を果たしていることは否めない。

以上のように、医療の枠組のなかに取り込まれ、治療実践も多様化する現状のもと、HIV/AIDS感染者は患う身体をどのように認知し、構築していくのか。本発表においては、チェンマイ県メーオン郡立病院で2004年7月より実施され、09年現在も継続しているHIV/AIDS感染者に対する鍼灸治療プロジェクトを事例として取りあげ、「医療者 病者」間関係を手がかりに感染者の鍼灸治療に対する受容と拒絶、医療者のHIV/AIDS治療への取り組みという双方から検討することで、HIV/AIDS治療における鍼灸治療の位置づけを明らかにする。まず、医療者の視点から鍼灸治療実施の背景および治療提供の過程を述べ、医療者の鍼灸治療に対する位置づけを画定する。次に、HIV/AIDS感染者の視点から鍼灸治療における受容と拒絶のメカニズムを検討し、治療空間としての郡立病院、および鍼灸治療がどのように解釈されているのかを検討する。そして、鍼灸治療における「医療者 病者」間関係が病者の身体を構築していくうえでどのように作用し、医療者と病者の治療に対する世界観にいかなる齟齬が見られるのかについて考察する。なお、本発表において使用する資料は2004年7月から2008年11月までの27ヶ月間、発表者が断続的に実施したチェンマイ県メーオン郡周辺を基点とした定着調査により収集されたものである。

メーオン郡立病院における鍼灸治療プロジェクトはHIV/AIDS治療を担当する女性看護師とカナダ国籍の女性鍼灸師が中心となって2004年7月に立ち上げられた。医療チームの治療目的はHIV/AIDS感染者のARV治療にともなう副作用を緩和させることであった。鍼灸治療は無料であるため、医療者の治療への情熱が前面に出たものであり、その意味で慈善的側面を帯びていると言える。治療はカナダ国籍の女性鍼灸師が作成した24項目の問診表にのっとっておこなわれるが、その際、病いとその治療とに関連した感染者の現在の主要な心理・社会的諸問題を記録することに重きが置かれている。医療者は鍼灸治療プロジェクトを慈善的医療と捉えるがゆえに「医療者 病者」間関係を位階関係で説明しようとし、HIV/AIDS感染者に定期的かつ継続的に治療を受けることを期待する。

これに対し、HIV/AIDS感染者は鍼灸を治療であると認めてはいるものの、それを絶対的治療であるとみなしてはいない。彼らは針を刺すときに生じる身体的「痛み」に非常に敏感に反応し、それを理由に治療を断念するものも少なくない。実際にプロジェクト開始時に比して治療を受けるHIV/AIDS感染者は減少しているが、それでもプロジェクトが継続しているのは、HIV/AIDS感染者が治療空間を情報交換の場として再解釈し、治療としての鍼灸に別の意義を見出しているからであると考えられる。つまり、医療者の期待に反し、独自の解釈を加えることによりHIV/AIDS感染者は治療と向き合い、身体を構築するのである。

以上のことから「医療者 病者」間関係の3つのゆがみが指摘できる。(1)医療者の病者に対する情熱とHIV/AIDS感染者の治療受容の仕方には齟齬が生じているため、医療の慈善的側面だけでHIV/AIDS感染者を動員することは難しい(医療の性質による位階関係のゆがみ)。(2)HIV/AIDS感染者は鍼灸治療において身体的「痛み」を回避するというインセンティブが働くため、「痛み」の回避が位階関係を覆す場合がある(治療による位階関係のゆがみ)。(3)医療者は位階関係を想起した治療空間を創出したが、HIV/AIDS感染者は位階関係を機軸としながらも、医療者が創出した空間に解釈を加え、転回させることでしたたかに空間を利用する(空間創出による位階関係のゆがみ)。

【 HIV/AIDS、鍼灸治療、身体構築、空間利用、北部タイ 】